

生と死をつなぐケア

老いとぼけに関わるヒトの世界は、真面目で滑稽な出来事であふれています。そこから創られる介護に希望はあると思います。27年目を迎え、ふたつの宅老所とひとつの特養を運営する「よりあい」の現状とこれからの、たっぷりご報告します。

2020年
日時: 1月21日(火)

熊本
会場

会場: 熊本市市民会館シアーズホーム
夢ホール (第9会議室)

(熊本県熊本市中央区桜町1-3)
☆JR熊本駅前よりバス「交通センター」下車徒歩3分、
熊本市電「花畑町」下車、徒歩5分

2020年
日時: 1月22日(水)

鹿児島
会場

会場: 鹿児島県婦人会館
(第2研修室)

(鹿児島県鹿児島市下荒田2-27-12)
☆市電「二中通」または「荒田八幡」下車徒歩5分、
市営バス13番「婦人会館前」下車徒歩1分

【講師】

(むらせ たかお)
村瀬 孝生



特別養護老人ホーム「よりあいの森」施設長。
1964年、福岡県飯塚市生まれ。東北福祉大学を業後、特別養護
老人ホームに生活指導員として勤務。1996年から、「第2宅老所
よりあい」所長を務める。2015年4月より現職。著書に『ぼけて
もいいよ』(西日本新聞社)『看取りケアの作法』(雲母書房)
など多数。

【受講料: 6,000円】

*受講料は当日会場で承ります。

10:30~16:00

プログラム
(昼食・休憩あり)

生活を共に創る — 主体を大切にするケア

キーワードは「わたしとあなた」、「生身の主体」、「わからない」、「合意」、「自由」。今日の私は、昨日の私と同じではありません。プランと標準化された介護は、お年寄りと介護者を過去に縛り付けてしまいます。介護される側もする側もイキイキしたい。お年寄りと一緒に今日を創りましょう。

作業からの脱皮 — ひとりに添うケア、集いを楽しむケア

スタッフの中心的な仕事は、お年寄りのそばに一緒にいること。一緒に美味しいお茶を飲み、一緒に食べる時間を楽しむこと。集いによる「場の力」は個別ケアを豊かにします。介護を作業にしないために大切なことは、現場裁量とスタッフの柔軟なチームプレーです。

介護を地域に還す — ひとりを支援するケア

とにかく施設に鍵をかけません。行動を抑制するために薬漬けにすることもしません。そのためには、施設から外に出て歩くお年寄りの見守りを、地域住民のひとりひとりをお願いします。その積み上げが地域ケアを創る可能性を持っています。さらに、地域ケアは労いを生むのです。

看取りケアの作法 — 暮らしの中にある死

看取りは、あくまで暮らしの延長線上にあります。スタッフは合宿しながら、その臨終を家族と共有してきました。日頃から五感をフルに活用して「体を触る介護」は、寿ぎのある死に着地します。医療からもっとも遠い場所でこそ、人間的な看取りが可能となるのです。

*受講票はお送りしません。満員でお断りする場合のみ一週間以内にご連絡申し上げます。

主催

なるほどケア塾

〒189-0011

東京都東村山市恩多町3-39-13-101 榎円窓社内

お問い合わせ

☎042-306-3771

鹿児島
会場

共催

株式会社いろ葉

鹿児島県鹿児島市坂之上7-42-1

TEL / FAX : 099-297-6242

Fax : 042-306-3772

お申し込みはこちらへ Fax

<参加人数>

<参加者名>

*施設の場合は施設名もご記入ください。

<住所>〒

(自宅・職場)

<TEL>

<FAX>

1/21(火)熊本

()名

1/22(水)鹿児島

()名